

～届け私たちの思い～

第3回本庄市中学生まちづくり議会



長島 達哉 副議長
(本庄東中2年)

塚田 翔太 議長
(本庄西中2年)

将来の本庄市を担う中学生に、市政への関心と理解を深めてもらうことを目的に行っている「中学生まちづくり議会」。今年は、2月4日に市内5中学校から30人の生徒たちが参加して市議会議場で開催されました。当日は各校の代表10人が、身近な問題から将来にわたる課題まで、さまざまな質問を行いました。なお、ここでは質問・答弁の内容を要約して掲載しています。

【まちづくり議会議員名簿】

本庄東高等学校附属中学校					本庄西中学校					本庄東中学校					児玉中学校					本庄南中学校									
久保田祥子	大井章敬	三澤大輝	武藤よしの	近藤美沙樹	澤野崇倫	諸岡政宗	藤田愛理	梶田秀斗	岡野晃	田々楽智咲	塚田翔太	篠原瑛里	細川佳輝	福島卓弥	佐藤歩実	小林裕貴	長島達哉	堀口里奈	滝澤良星	関口茉莉子	前川晴輝	今井蘭	紫藤翔太	小久保真央	黒澤栞	小暮秀之	鳥羽雅史	二見啓夢	岡村俊祐
2年	2年	2年	1年	1年	1年	2年	1年	1年	2年	2年	2年	1年	2年	2年	2年	2年	2年	1年	1年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年

⑧児玉中学校への通学路で見通しが悪く危険な場所がいくつかあります。そのような場所にカーブミラーを設置することはできませんか。



柴藤 翔太 議員
(児玉中2年)

通学路については、朝や夕方方の通学時間帯に、より交通量が多く、交通事故が起こりやすい危険な場所に設置しています。また、平成19年11月には、通学路でカーブミラーの設置などの交通安全対策が必要な箇所を各小中学校で調べてもらいました。これを受けて、市では県や警察などと定期的に会議を行い、緊急性の高いものから順次、交通安全対策を行っています。ご指摘の箇所については、学校に確認させていただきます。

⑨本庄南中学校の校庭は、南側に設けられている側溝が雨水を排水する役目をしていいますが、歳月の経過とともに側溝のふたの上に土砂がたまり、側溝に雨水が流れなくなっていました。学校の話による



岡村 俊祐 議員
(本庄南中2年)

と、今年に入り生徒のみなさんの手で土砂を掘り起こしていただいたとのことで、大変ありがとうございます。学校の校庭を水はけのよい校庭にするには多額の費用が必要となるため、長期的な計画の中で検討しなければなりません。現在、市では児童生徒の安全・安心の確保を第一に考え、校舎の耐震化に計画的に取り組んでいます。また、みなさんの手で土砂を掘り起こしていただいた後の排水効果を確認し、より排水に効果的で経済的な方法を考えていきたいと思っております。



小林 裕貴 議員
(本庄東中2年)

⑧失業者の人々やその家族に市としての支援の対策がありますか。例えば、経済的な理由で高校や大学に進学できない子どもに対して、何か支援対策がありますか。

⑨市では、市内の企業の現状をアンケート調査し、まず、市内の中小企業者の資金繰り支援策として、「中小企業緊急運転資金融資制度」を昨年12月に創設しました。



田々樂 智咲 議員
(本庄西中2年)

⑧本庄早稲田駅をたくさんの方が利用できるようにするには、自家用車以外の交通手段が必要と考えます。例えば、本庄駅から本庄早稲田駅間にショッピングモールや文化的施設等をつくり、周辺の路線バスのアクセスを充実させます。本庄早稲田駅が利用しやすいければ、本庄市全体の活性化にもつながると思います。

⑨また、高校や大学に経済的な理由で進学できない子どもたちには、従来から「入学準備金貸付制度」や「育英資金貸付制度」があります。入学準備金貸付制度は、高校及び大学に入学する際に必要な入学金などの費用を無利子で保護者に貸し付ける制度であり、育英資金貸付制度は、高校及び大学に在学中に必要な授業料などの学費を卒業するまで無利子で貸し付ける制度です。経済的に大変であっても、こうした制度を活用しながら目標に向かってがんばっていたきたいと思います。



答弁する吉田市長

⑩本庄早稲田駅周辺のまちづくりは、現在、「独立行政法人都市再生機構」が施行者になり、土地区画整理事業を中心に進めています。将来的には、中心部に大型の商業施設が建てられ、本庄早稲田駅の周囲にもさまざまな企業のオフィスパイルがで、にぎわいが生まれるものと考えています。

今後、経済状況の悪化に伴う影響が、さらに深刻さを増していく可能性もあります。そのため、情報収集を引き続き行いながら、どのような対策が必要で、有効であるか、検討していきます。

そして、多くの人々が集い、利用しやすい駅にするためには、公共交通アクセスの確保が重要となります。

現在、市内の路線バスは4路線ありますが、採算性の問題から本庄早稲田駅へは運行されていません。また、市内循環バスも、高齢者等の交通弱者の日常生活の足の確保を目的に市内全域を循環する経路で運行しており、本庄駅や本庄早稲田駅を中心とした運行体系ではありません。

しかしながら、本庄早稲田駅周辺のまちづくりが進めば、路線バスをはじめとした交通需要が高まるものと考えています。

今後は、民間バス事業者との連携を図るとともに、本庄早稲田駅や本庄駅へのアクセスの向上や広域的な交通体系の充実に取り組み、本庄市全体の活性化につなげていきたいと思います。



大井 章敬 議員
(本庄高等学校附属中2年)

⑧市内には歩道が狭く、小さな子どもやお年寄りが安心して歩けないところが多くあります。歩道を広く安全にしていくための計画はありますか。

⑨歩道整備については、駅周辺や学校を中心とした比較的歩行者の多い道路や、国道17号及び国道462号など幹線道路の両側に歩道を設置し、歩行者の安全を確保してきたところです。



黒澤 菜 議員
(本庄南中2年)

⑩新しい給食センターになって食器の数が増えましたが、それ以外にどのような点が変わったのですか。給食の量が増えたりはしないのですか。

⑪昨年11月に完成した新給食センターは、「食の安全」「食育の推進」「地域の安心」という3つの基本的な考え方のもとに建設されました。これにより、地元で採れる安全な食

しかしながら、中山道を中心とする市街地をはじめ、歩道の設置されていない道路が多く、歩道が設置されていても狭く感じる道路もあります。すべての道路に十分な歩道が設置できればよいのですが、家屋が建ち並んでいる場合には難しいのが現状です。

このため、市では、歩行者の多い駅周辺や通学路を中心等に交通安全上危険な箇所等に歩道を設置するとともに、子どもやお年寄りが安心して歩けるよう、歩道のバリアフリー化や舗装面の補修等を行っていききたいと思います。

材をより多く取り入れることができたり、米飯の回数を増やしたりもできます。また、アレルギー対応給食の専用調理室もあり、きめ細かい対応ができる施設となっています。

給食の量については、栄養士によるカロリー計算に基づいて調理していますので、変更はありませんが、御飯の量は学校からの要望があれば増量も可能とのことです。また、野菜のあえ物なども提供することが可能となりましたので、今後は更に充実したメニューとなるものと思われれます。